

僕には鳥の言葉がわかる

鈴木俊貴さんの「僕には鳥の言葉がわかる」という本を先日読みました。今、大変売れている本ですし、中学校1年生の国語の教科書にも載っているので、知っている人もいるかもしれません。知らない人もおられるので、本の内容を簡単に説明しますね。

鈴木さんは子どもの時から虫や野鳥の観察が好きでした。特に鳥の鳴き声に興味を持ちました。同じ鳥でも色んな鳴き声があることに気付いた鈴木さんは、「鳴き声の違いには意味があり、鳥は言葉を喋っているのではないか?」と思い、20年以上シジュウカラという鳥の鳴き声を研究されました。結論から言うと鈴木さんの予想はその通りとなり、鳥の鳴き声は意味のある言葉、いわばシジュウカラ語があることが証明されました。それは他の動物にも当てはまり、今では「動物言語学」という専門の学問の誕生にまで結びつきました。

それでは実際にシジュウカラの鳴き声を聞いてもらいます。

まずは天敵のヘビを見つけた時の「ジャージャー」

続いてこれも天敵のタカを見つけた時の「ヒヒヒ」

最後に2つ以上の言葉をつないだ警戒して集まれの「ピーツピ・チチチ」

例えば最初のヘビを見つけた時の「ジャージャー」を録音してシジュウカラの巣の近くで流すと巣からシジュウカラと次々と逃げ出すそうです。当然、ヘビに襲われないためです。もっといって、シジュウカラが天敵のタカを見つけて「ヒヒヒ」と鳴くと、コガラやヤマガラといった他の鳥だけでなく、リスも逃げ出すことが分かりました。シジュウカラ語を鳥だけでなく動物も理解していることが証明されたのです。もしかしたら、何十万年前の人類も動物の言葉を理解していたかもしれませんね。

今では動物語翻訳アプリなどもあり、動物たちの言葉を理解しようとする研究がすすんでいます。動物たちと会話できる時がくればいいですね。

これで校長先生のお話を終わります。